

教養教育「情報処理」での ICT 活用

総合情報基盤センター 講師 上木 佐季子

1. はじめに

本学五福キャンパスでは、教養教育に情報リテラシーを主な内容とした科目「情報処理」(2単位, 選択)を開講しており、毎年五福キャンパスの1年生約9割が受講する。この科目は、平成5年度から開始されたもので、今年度(平成19年度)は15年目にあたる。開始当初から今年度までの間、授業内容や情報システム環境が変わっているが、本稿では、今年度(平成19年度)におけるこの科目についての概要を紹介する。

2. 実施体制

2-1. 担当教員

担当教員は、全学部(総合情報基盤センターを含む)を横断して組織される情報処理教育部会に所属する教員であり、その所属教員数は約50名である。毎年編成される約30クラスを、学部教員においては毎年交代で、本センター教員においては毎年2~3クラスずつ担当している。なお、1クラス(受講者45名程度)の担当は、教員1名、ティーチングアシスタント1名である。

2-2. 開講クラス数

平成19年度は、33クラスが開講された。クラスは、基本的には学部別であり、平成18年度および19年度は、レベル別の編成も行っている。クラス内訳については、表1のとおりである。なお、レベルについては、自己申告によるもので、各学部で実施する履修に関するオリエンテーション時に、調査している(「情報処理・言語表現 受講希望票」を配布し回収する)。

3. 授業内容

授業は1コマ×15週であるが、第1回目につい

表1 クラス内訳

	学部	レベル	クラス数
前期	人文	中級	2
		初級+中級	2
	人間発達科	中級	3
		初級	1
	経済	中級	4
		初級+中級	1
理	初級	5	
		1	
工	中級	6	
	初級+中級	1	
	初級	1	
後期	全学	初級+中級	1
クラス数計			33

ては、五福キャンパス新生全員を対象とする「情報基盤オリエンテーション」が対応する。

授業内容は、開講学部および担当教員によって、多少の違いはあるが、PCシステムの基本操作、電子メール・WWWの閲覧といったインターネットの活用、MS-Office等の基本アプリケーションの活用および情報倫理(ビデオ教材利用)となっており、半数以上のクラスがこれらの他にHTMLによるWebページの作成、そして少数クラスで、論文清書システムTeXや数式処理システムMathematicaも取り入れているようである。

3-1. 教科書

授業用教科書は、富山大学情報教育研究会が作成したテキスト「2007年版大学生の情報リテラシーOffice2007による大学生のICT活用標準テキスト[第1版]」(図1)が用いられた。そのテキストの目次を図2に示す。

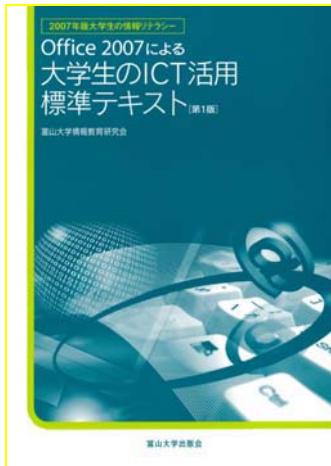


図1 「2007年版大学生の情報リテラシーOffice2007による大学生のICT活用標準テキスト[第1版]」表紙

2007年版大学生の情報リテラシーOffice2007による
大学生のICT活用標準テキスト[第1版]

=目次=

1. PCシステムの基本操作
2. e-Learningシステムの使い方
3. テキスト・エディタの使い方
4. 電子メールの使い方
5. WWW, Web Browserと検索エンジンの使い方
6. Webページの作成・更新方法
7. 図書館情報システムと学務情報システムの使い方
8. 電子掲示板BBSと電子日記帳blogの活用法
9. 表計算ソフトウェアExcelの活用法
10. プレゼンテーションの技法とPowerPointの活用法
11. ワード・プロセッサWordの活用法
12. ワード・プロセッサ太郎2006の活用法
13. タイプセッティング・システムLaTeXによる論文の作成
14. データベース・システムAccessの活用法
15. 情報倫理の遵守とマナー, インターネット上の脅威と対策

図2 「情報処理」教科書目次

3-2. 情報処理オンライン教材

情報処理オンライン教材として, 本センター作成のWeb教材が用意されている。そのメニュー

ページのURLは,

<http://www.itc.u-toyama.ac.jp/el/>

であり(図3), 用意されている教材は次のとおりである。

- eラーニング教材
 - ・ワードプロセッサWord2007を使おう
 - ・表計算ソフトウェアExcel2007を使おう
 - ・プレゼンテーション・ソフトウェアPowerPoint2007を使おう
 - ・ホームページを使ってみよう
 - ・数式書影システムMathematicaを使おう
 - ・論文清書システムTeXを使おう
- 学習管理システム
 - ・WebCT学習者マニュアル
 - ・Blackboard学習者ガイド
- 各種ツールとマニュアル
 - ・Webmailの使い方
 - ・AL-Mailの使い方
 - ・プリンタの使い方
 - ・教育用計算サーバの使い方
- 端末室情報
 - ・端末室で使用できるソフトウェア一覧



図3 情報処理教材メニューページ

3-3. 情報倫理ビデオ教材

情報倫理教育のビデオ教材として、メディア教育開発センター制作の「情報教育教材シリーズ『情報倫理デジタルビデオ小品集2』」を利用した。これは、五福キャンパスの教育用端末室のPCすべてにインストールされているので、授業中、プロジェクターによりスクリーンに投影し一斉視聴するだけでなく、学生が（イヤホンを利用して）個別に視聴することも可能である。なお、この教材は全20章から成っており、それぞれの章に対応した確認テストを次に紹介する学習管理システムWebCT上に用意した（図4、図5）。

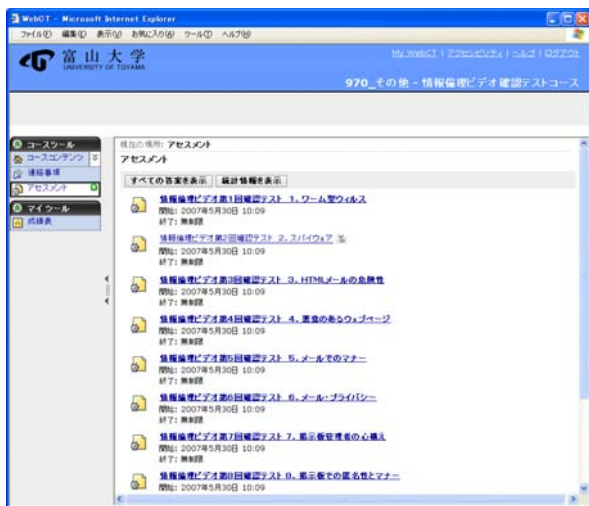


図4 WebCT上の情報倫理確認テストメニュー画面

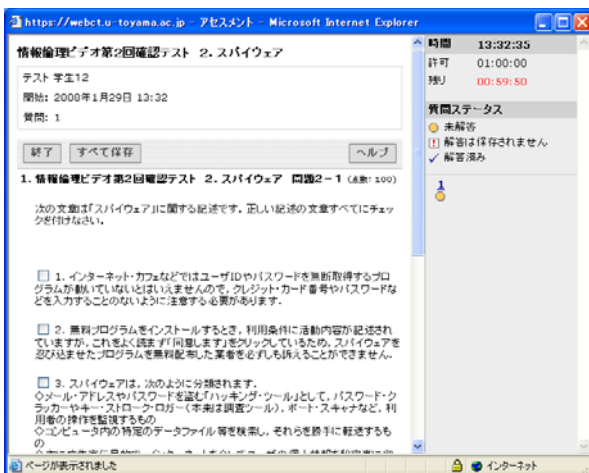


図5 WebCT上の情報倫理確認テスト画面

3-4. 学習管理システム

本センターが管理する学習管理システムとして、WebCT（現在正式名 Blackboard Learning System CE、ログイン画面URL: <https://webct.u-toyama.ac.jp/>）と Blackboard Academic Suite（ログイン画面URL: <http://bbas7.u-toyama.ac.jp/>）および Moodle がある。

WebCT 上には、情報処理全クラスのコースを作成し、それぞれのコースに情報倫理確認テスト（共通テスト）を用意した（図4、図5）。また、教科書の課題に対応した共通課題も用意した。

なお、4月の授業開始前に情報処理担当教員およびティーチングアシスタント向けの学習管理システムWebCT講習会を実施した（表2）。

表2 情報処理担当教員およびTA向け講習会

講習会名	「情報処理」におけるWebCTの利用法
開催日時	(日程A)2007年4月17日(火) 16:30~17:30 (日程B)2007年4月18日(水) 16:30~17:30 (日程C)2007年4月20日(金) 16:30~17:30 (日程D)2007年4月23日(月) 16:30~17:30 ※日程A~Dはすべて同じ内容
開催場所	総合情報基盤センター1F or 4F 端末室
受講対象	平成19年度情報処理授業担当者およびそのTA
受講者数	日程A:4人, B:4人, C:4人, D:1人
担当講師	総合情報基盤センター 上木佐季子
講習内容	WebCT上の情報処理授業用コースの使用法 ・用意された課題の提示方法 ・用意されたテストの提示方法 ・課題・テストの評価方法

5. おわりに

本稿では、五福キャンパス教養教育「情報処理」科目について、その実施体制と今年度（平成19年度）における授業内容の概要について、紹介した。

参考文献

富山大学情報教育研究会, 2007年版大学生の情報リテラシーOffice2007による大学生のICT活用標準テキスト [第1版], 富山大学出版会, 2007

メディア教育開発センター, 情報教育教材シリーズ『情報倫理デジタルビデオ小品集2』(DVD), 2004